

本論文は

世界経済評論 2017年3/4月号

(2017年3月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

Progress

: Ten Reasons to Look Forward to the Future

The Better Angels of Our Nature

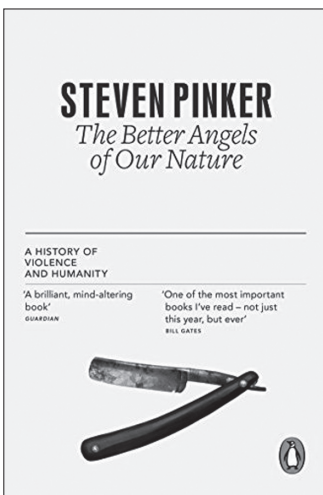
: The Decline of Violence in History and Its Causes

新潟県立大学学長 猪口 孝



[著者] Johan Norberg

[発行] OneWorld Publications, 2016.



[著者] Steven Pinker

[発行] Allen and Unwin, 2011.

選挙が近づくと、緊張が高まる。紛争で和平の気運が近づくと、緊張が高まる。どちらも人間の競争や闘争に関係するからである。経済も戦争も競争、闘争であることにはかわりが無い。上記の二書は繁栄を追求している方や平和を希求している方には必読書であろう。なぜか。どちらも人が思っている以上に、健康、富、戦死などからみると、格段に良くなっているのが現在の人間の置かれている位置であることを沢山のデータや長い歴史から議論しているからである。

実際のところ、どうしてこんなに世界の終末が近づいているかのようにマスメディアは書くのだろうか。誰も新聞や雑誌や書籍などを読まなくなったから、極端に大袈裟なこと、極端にありそうななさそうなことを実際はあるかのごとく書く風潮が強くなったのではないか。このところの新聞やテレビをみると、英国欧州離脱、米国大統領選挙演説、北朝鮮の核兵器実験、南シナ海の緊張などについて、話を聞くだけで、恐ろしくなってしまう。

ヨハン・ノルバークは次のようにはじめる。1868年のスウェーデン、著者の何代も上のおじいさんの5乗位のおじいさんのうちに、飢餓の子供が夜尋ねてきた。パンのかけらがあったら、恵んでいただけまいか、と言う。おばあちゃんの5乗位のおばあさんは、パンでひもじ

くなっていることにはかわりがないこと、しかし、この位のパンでよければ、と与える。翌朝何が発見されたのか。その家と隣の家（多分20分とか離れている）の途中で、凍死している子供たちだった。

それに比べると、2016年のスウェーデンではそんな悲劇は起こりにくい。アフリカの衛生や栄養は着実に良くなっている。それも10年前には英国の開発経済学者がアフリカは金食い虫のように描いていた。アフリカの東部や南部の高地では気候もよく、世界中から投資が集まっている。過去100年の身長伸びでみると、男性ではイラン人、女性では韓国人が世界一である。そういえば、リオのオリンピックでみた韓国女子バレーボールの選手の身長はいやに高かった。同様に、イランやアゼルバイジャンの男子レスリングの選手はいやに体格が大きかった。そんな遠くをみなくとも、1964年の東京オリンピックの年に日本人の平均寿命は64歳である。2016年には83歳位なのだろう。1868年といえば、明治維新。そのころの人々

の生活をみたら、スウェーデンの1868年とひどく違わないことも起きていただろう。

後者の本は戦死者の数が着実に減少していることを人類の発生から何万年もまえから、統計でせめてくる。より最近では、1945年以来、日本は戦死者零の記録を70年以上記録している。ちょうど、スウェーデンが18世紀初頭の北方戦争でロシアに完璧にやられ、その後戦争死者をだしていないことに似ている。こまかくいえば、ナポレオン戦争の時について、欲がでて二、三年参戦し、戦死者がでた。しかし、第一次大戦も第二次大戦にも中立を保ち、今日に至っている。国連平和維持軍に積極的に参加しているので、それなりの戦死者が時々出る。しかし、当然ながら国葬の立派なことは国のために命を失った本人と遺族に最高の敬意をはらって、このような制度政策は続くのである。

上記の書籍は読みやすだけでなく、小さなことにガタガタし、大騒ぎするのではなく、日頃から学習を重ねて平静に、着実に対応していくことの重要性を説いている。

(いのぐち たかし)

書評委員について

世界経済評論書評委員は、最近1年間ほどの間に出版された書物並びに自らを含めた評者の選定を行い、各号の書評欄の寄稿を担当します。次の14氏が書評委員です。石川幸一、猪口 孝、馬田啓一、浦田秀次郎、江夏健一、葛西敬之、橋川武郎、木村福成、朽木昭文、清水一史、白木三秀、田中素香、松下満雄、安室憲一の14氏。